

志賀原子力発電所2号炉

敷地及び敷地周辺の地質・地質構造

【調査計画及び現地調査でのコメントへの回答方針】

2021年12月15日
北陸電力株式会社

■「敷地及び敷地周辺の地質・地質構造」について、第1009回審査会合(2021.10.14)、現地調査(2021.11.18, 19)での審議を踏まえ、調査・検討の状況及び今後のスケジュールについて説明する。

目 次

1. 福浦断層の南端付近に関する追加調査計画	・・・	3
2. 現地調査でのコメント及び回答方針	・・・	9
3. 今後のスケジュール	・・・	13
(参考)未回答コメント一覧	・・・	14

1. 福浦断層の南端付近に関する追加調査計画

○第1009回審査会合(2021.10.14)において敷地近傍の断層の評価について説明した。審査会合でのコメント及びコメントに対する回答方針を下表に示す。このうち、福浦断層の南端付近に関する追加調査計画について説明する。

	区分	No	コメント	回答方針	回答の説明時期(予定)
敷地周辺の地質・地質構造	福浦断層	21	福浦断層南部の改変前の地形データを示すこと。	福浦断層南部の改変前の航空写真から地形図, 赤色立体地図を作成し, 改変前の地形の説明性の向上を図る。	2022年4月
	福浦断層	22	福浦断層南部の断層トレースや南端の評価について, 大坪川ダム左岸のF-1' 孔で確認された破砕部の追加分析等も含めて, 地質データの拡充等を行うことにより, 根拠を充実させること。	ボーリング調査等を実施し, 福浦断層南部の断層トレースや南端に関する地質データを拡充する。(今回, 追加調査計画を説明(P.4~6).)	2022年4月
	福浦断層	23	福浦断層南部において, 反射法地震探査の実施を検討すること。	反射法地震探査を実施し, 福浦断層南部の断層トレースに関するデータを拡充する。(今回, 追加調査計画を説明(P.4, 5).)	2022年4月
	長田付近の断層	24	長田付近の表土はぎ調査①で確認された不整合境界に関する詳細なデータを示すこと。	表土はぎ調査①地点で露頭の再観察を実施し, 不整合境界に関する詳細なデータを追記する。	2022年4月
	富来川南岸断層	25	富来川南岸断層の北東端(Loc.A)の評価にあたり, 今田付近の地質データを用いて評価することの妥当性を説明すること。また, 地表踏査で得られた露頭データが北東端(Loc.A)の評価に十分であることの説明性を向上させること。	富来川南岸断層北東端の評価について, 断層の想定延長範囲や今田付近の地質データとの関係を詳細に記載する。	2022年4月
	富来川断層	26	富来川南岸断層の北東方に位置する富来川断層の評価について, 文献との対応や富来川南岸断層との関係も含めて説明すること。	敷地周辺(5km以遠)の断層評価において, 富来川断層の評価について, 文献との対応や富来川南岸断層との関係も含めて説明を行う。	2022年1月
	段丘面	27	能登半島西岸の段丘面高度分布における傾動の有無については, 標高のばらつきがあることを踏まえ, 評価を行うこと。	能登半島西岸の段丘面高度分布の傾動の有無について, 標高のばらつきを踏まえた評価を行い, 記載の見直しを行う。	2022年4月



追加調査計画を説明

1. 福浦断層の南端付近に関する追加調査計画

○第1009回審査会合(2021.10.14)での審議を踏まえ、福浦断層の南端付近の評価に対するデータ拡充のための調査を実施している。追加調査計画を下表及び次頁、次々頁に示す。

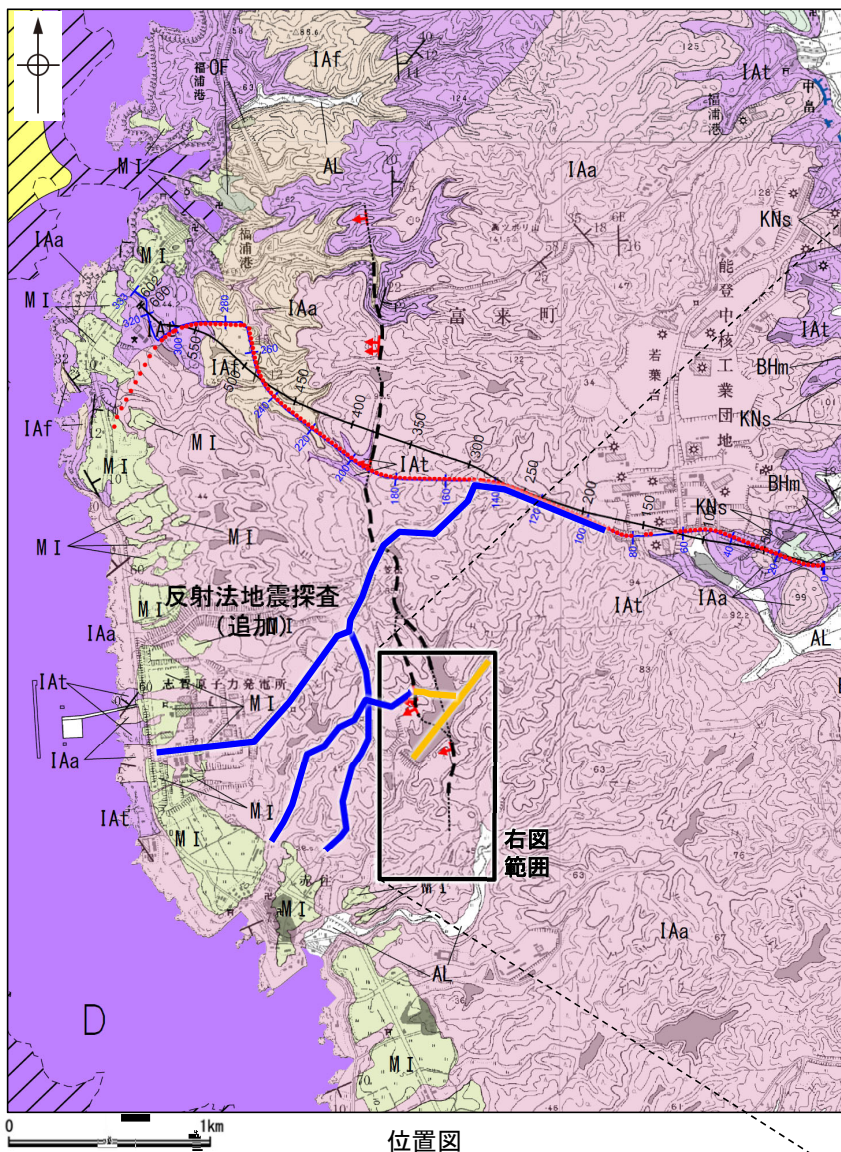
○なお、大坪川ダム基礎掘削面の地質観察結果をP.7, 8に示す。

福浦断層の南端付近に関する追加調査計画

調査の目的		対応するコメント	調査の内容※1	調査位置 (次頁)	終了時期 (予定)
福浦断層南端付近の評価に対するデータ拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング調査①(大坪川ダム左岸付近) ⇒大坪川ダム右岸の2本の断層の延長位置である大坪川ダム左岸で群列ボーリングを実施し、福浦断層の有無、断層トレースを確認する。 ・ボーリング調査②(F-1' 孔付近) ⇒大坪川ダム左岸のF-1' 孔で確認した福浦断層に対応する破碎部が不明瞭であることから、ほぼ同じ位置でボーリングを行い、福浦断層の有無、断層トレースを確認する。 ・ボーリング調査③(ルートマップG付近) ⇒ルートマップGの北西方に位置する北東-南西方向の谷地形で群列ボーリングを実施し、福浦断層の有無を確認する。 	22	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング調査①(大坪川ダム左岸付近): 4本 Br1~4, 掘進傾斜: 45°, 掘進長: 各100m ・ボーリング調査②(F-1' 孔付近): 1本 Br5, 掘進傾斜: 45°, 掘進長: 70m ・ボーリング調査③(ルートマップG付近): 2本 Br6~7, 掘進傾斜: 45°, 掘進長: 各50m 		2022年 2月
	敷地から福浦断層南部を横断するように反射法地震探査を実施し、福浦断層南部の断層の位置や傾斜などの地下構造を確認する。	23	<ul style="list-style-type: none"> ・反射法地震探査, 解析: 4測線 総延長: 約6.2km (陸域: 約5.4km, 湖内: 約0.8km) 		2022年 3月

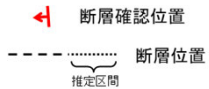
※1: 調査結果に応じて内容を追加, 変更する場合がある。

【福浦断層(南端付近)の調査位置図】

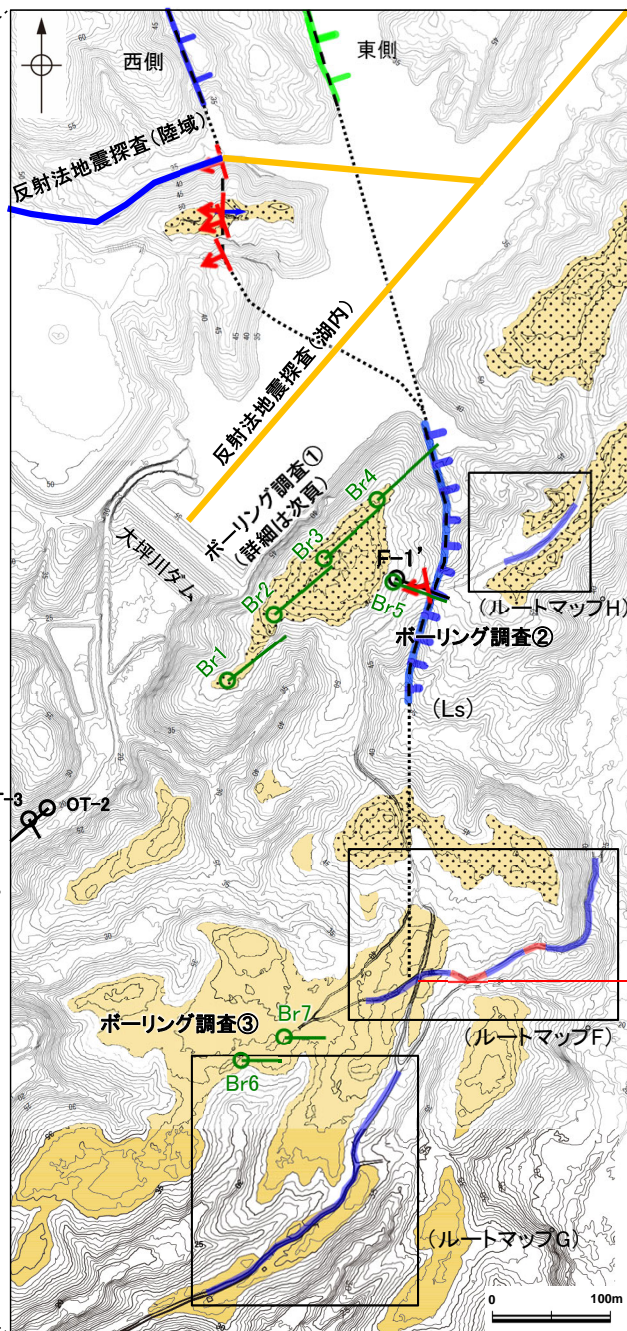


位置図

【地質】		地層・岩石名
地質時代	地層の番号	
第四紀更新世	AL	沖積層
	OF	古期扇状地堆積層
	MI	中段段丘I面堆積層
新第三紀	IAa	穴水累層 安山岩
	IAAt	穴水累層 安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)
	IAf	穴水累層 安山岩質火砕岩(凝灰岩)



南西方に分布する谷地形の位置に断層は認められない。



福浦断層南端付近 調査位置図

高位段丘I面

- : I b面
- : I a面

【リニアメント・変動地形】

- ↑ (Ls) (変動地形である可能性がある)
- ↓ (Lc) (変動地形である可能性が低い)
- ↕ (Ld) (変動地形である可能性は非常に低い)

↑は崖下側を示す。
↓は地形面の傾斜の向きを示す。

凡例

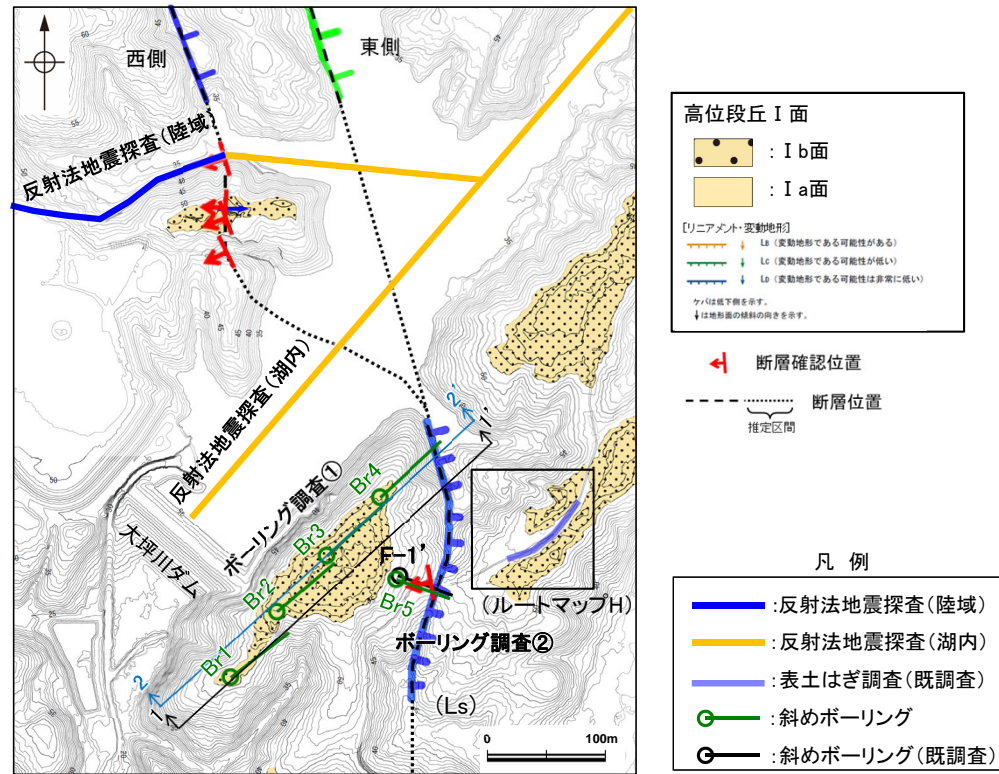
- (Blue): 反射法地震探査(陸域)
- (Yellow): 反射法地震探査(湖内)
- (Red): 反射法地震探査(既調査)
- (Purple): 表土はぎ調査(既調査)
- (Green): 群列ボーリング(既調査)
- (Green): 斜めボーリング
- (Red): 斜めボーリング(既調査)

反射法地震探査 仕様

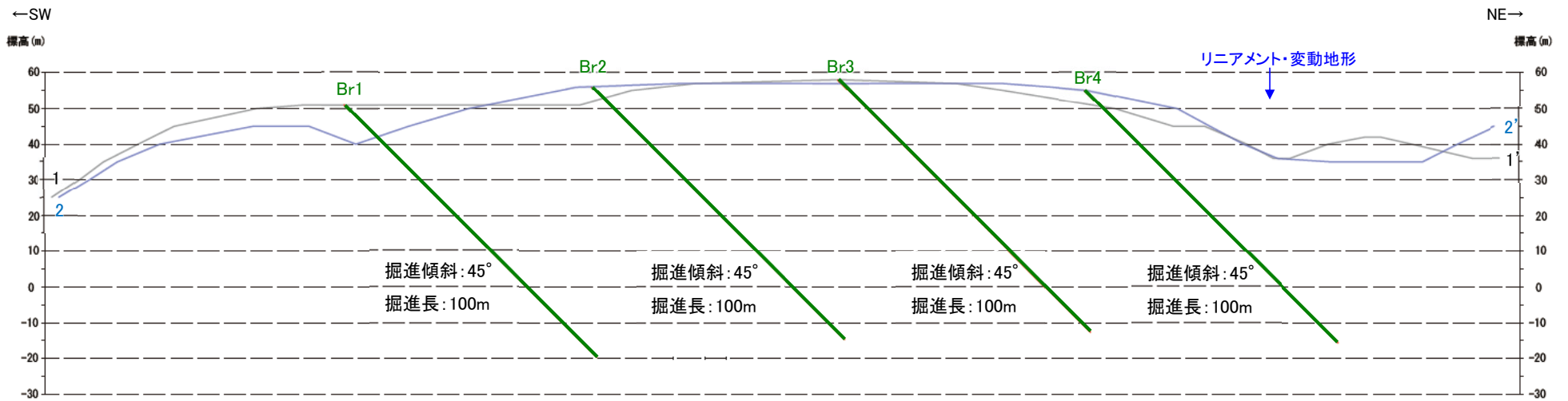
陸域	
測線長	約5.4km
震源	広帯域パイプレータ
発震点間隔	約3m
受振器	上下動ジオフォン
受振点間隔	約3m
サンプリング間隔	1ms
記録長	2s
湖内	
測線長	約0.8km
震源	小型エアガン
発震点間隔	約3m
受振器	ハイドロフォン
受振点間隔	約3m
サンプリング間隔	1ms
記録長	2s

南端

【大坪川ダム左岸付近 ボーリング調査①断面図】

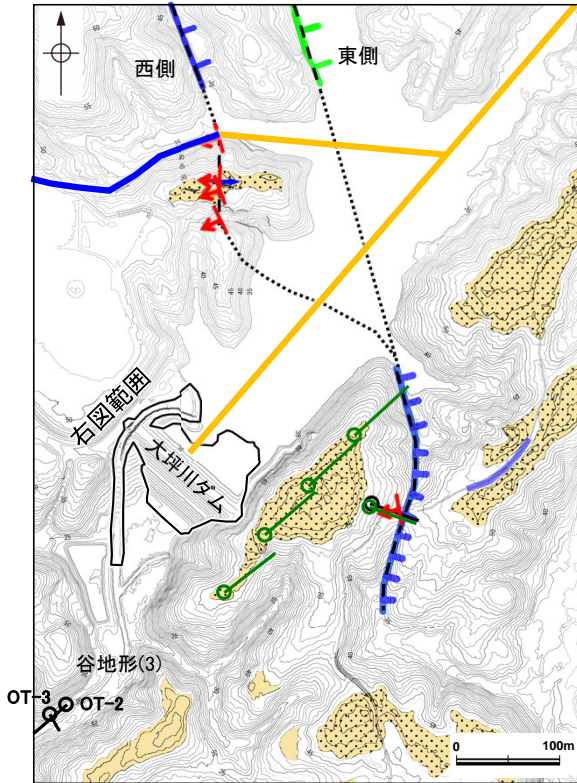


福浦断層南端付近 調査位置図



断面図

【大坪川ダム基礎掘削面 地質観察結果】



調査箇所付近地形図

- 高位段丘I面**
- : Ib面
 - : Ia面
 - ▲ 断層確認位置
 - 断層位置推定区画
- 凡例**
- : 反射法地震探査(陸域)
 - : 反射法地震探査(湖内)
 - : 表土はぎ調査(既調査)
 - : 斜めボーリング
 - : 斜めボーリング(既調査)

- 破碎帯※1
(岩石中において帯状の分布を示す角礫状～粘土状や不規則な割れ目の集合体)
- シーム※1
(岩石中において岩片混じり粘土や粘土からなる薄い軟弱層)

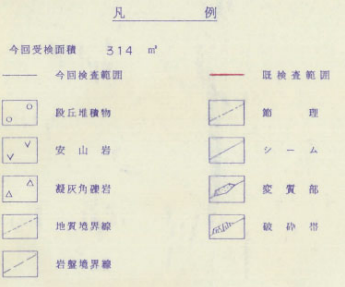
※1: スケッチ作成当時の定義



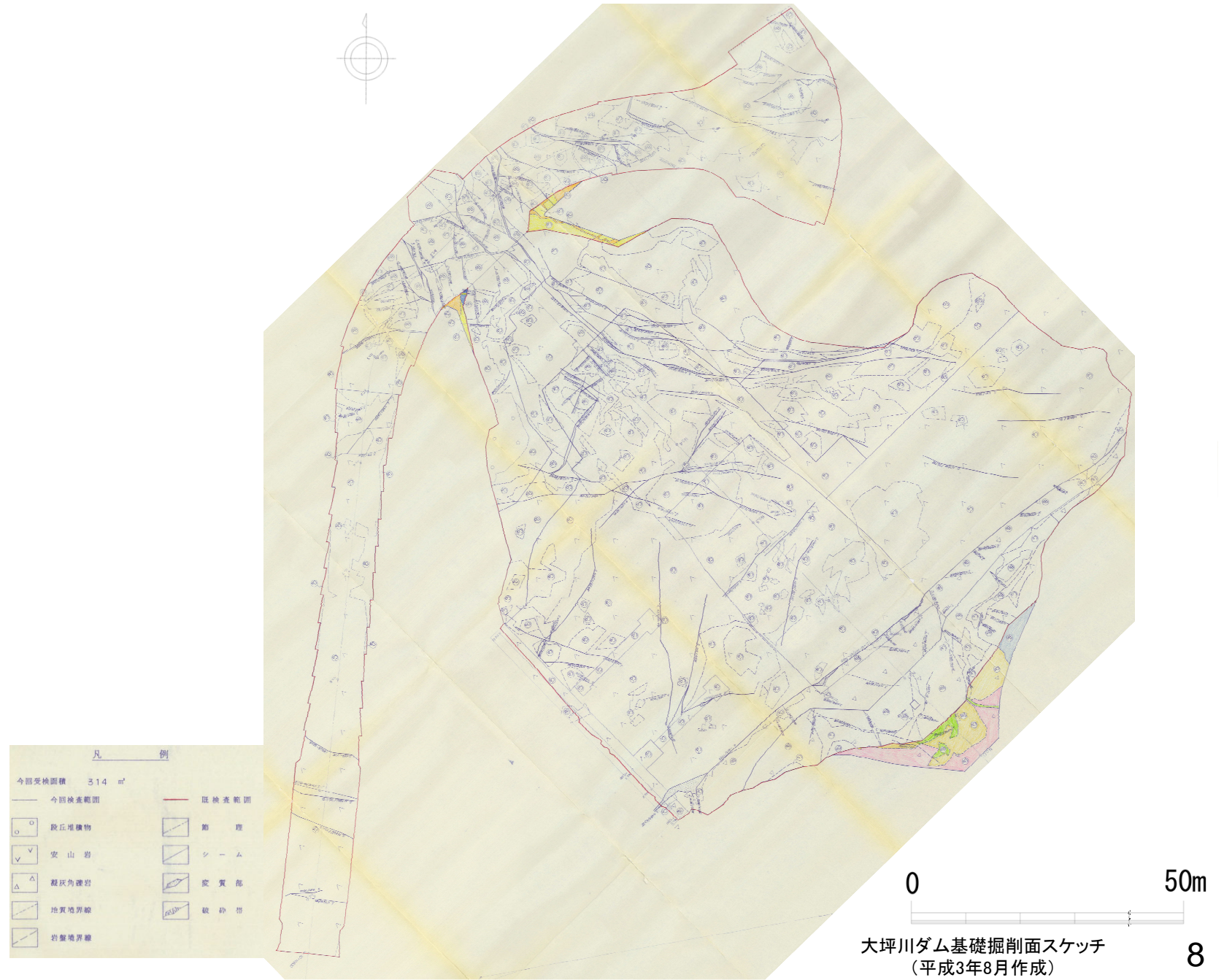
0 50m

※2: 河川法申請に伴う大坪川ダム工事に係る地盤検査記録(全11回の内、第11回検査記録より抜粋。着色部は、第11回検査記録範囲。)

- ・大坪川ダムの建設時の地質観察データを確認した結果、破碎帯、シーム等が示されている。
- ・これらは概ね連続性に乏しく、福浦断層と走向・傾斜が調和的な断層は認められない。
- ・なお、基礎掘削面の南東部にNE-SW走向のシームが連続して示されているものの、南東傾斜であり、福浦断層の西傾斜とは整合しない。また、その南西方延長にあたる谷地形(3)の位置で実施したボーリング孔(OT-2孔、OT-3孔)では谷地形(3)の走向に対応する断層は認められない(第1009回審査会合において説明済)。



【大坪川ダム基礎掘削面 地質観察結果(原図)】

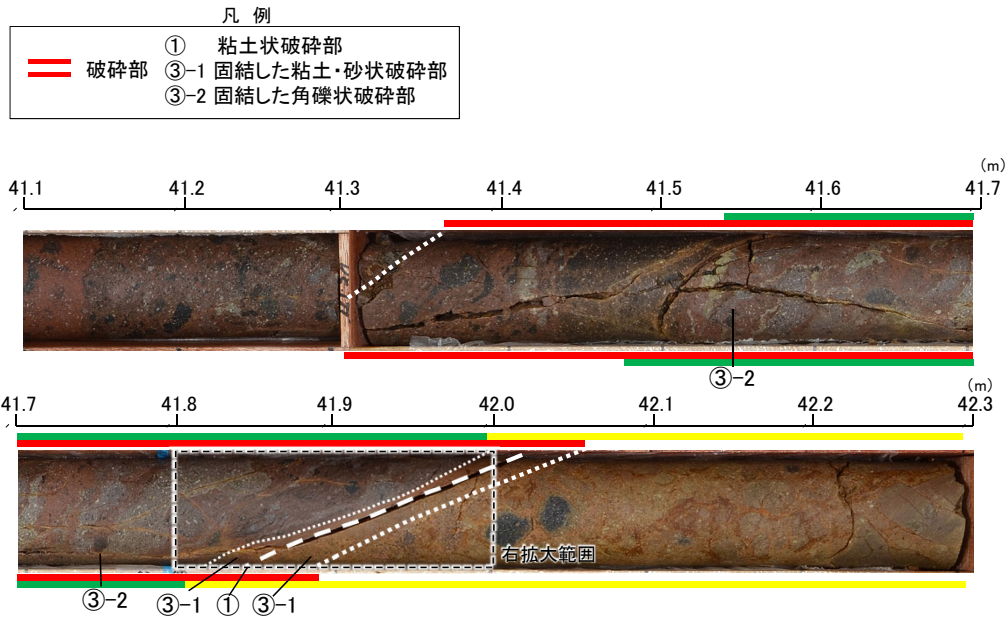


2. 現地調査でのコメント及び回答方針

○敷地内断層の活動性評価、福浦断層の評価に関する現地調査(2021.11.18, 19)での、審議を踏まえたコメント及びコメントに対する回答方針を下表に示す。

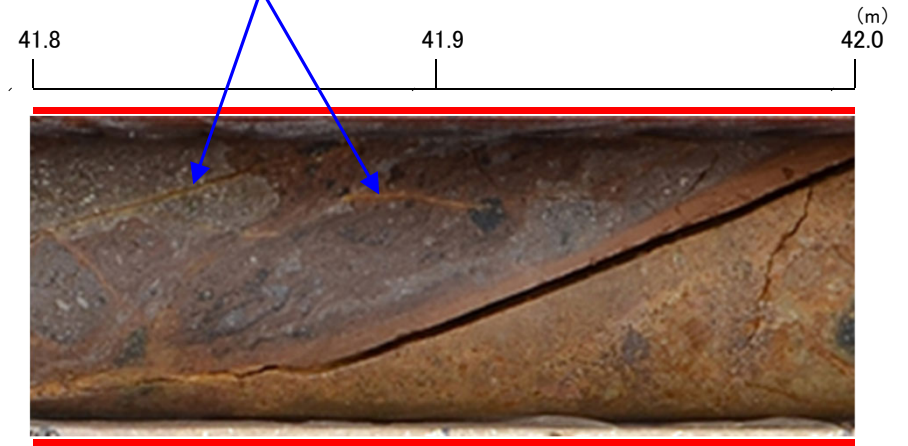
	区分	No	コメント	回答方針	回答の説明時期(予定)
敷地の地質・地質構造	変質鉱物の年代評価	116	穴水累層中に認められる白色脈と第四系の関係について、露頭での再観察等、より詳細なデータを示すこと。	No.2トレンチ、大坪川ダム右岸トレンチ等で安山岩中の割れ目に沿って認められる白色脈について、第四系との関係が確認できる箇所の拡大写真や分析等のデータを示す。	2022年2月
	S-2・S-6(上載地層法)	117	No.2トレンチでは、断層活動の影響により地層が山側に傾斜している可能性も考えられるため、上載地層の傾斜方向や礫の長軸の傾斜方向の説明にあたっては、S-2・S-6との位置関係も考慮した分析を行うこと。	M I 段丘堆積物中に認められる層理の傾斜方向と断層との位置関係について整理し、断層活動による層理の傾斜への影響について検討する。	2022年2月
	S-4(上載地層法)	118	35m盤トレンチについて、当該地点で上載地層を用いた手法により活動性を評価するのであれば、断層位置が判別できる露頭を改めて示した上で、説明すること。また、岩盤と上載地層との境界部についても、認定根拠を具体的に示すこと。	35m盤トレンチにおいて、各種分析を行い、断層や岩盤上面位置の根拠となる補強データを取得する。 ・ブロックサンプリング、研磨片等の作成 ・XRD分析、帯磁率測定等の実施 断層と上載地層との関係がより明確に確認できる箇所がないか、検討を行う。 上記を踏まえても説明性の向上が図れない場合は、S-4は鉱物脈法のみで活動性を評価し、当該地点における上載地層法による評価は参考データの位置づけとする。	2022年2月
	S-4(上載地層法)	119	35m盤法面の施工時の記録等があれば提示すること。	35m盤法面の施工記録を整理し、提示する。	2022年2月
	海岸部	120	K-2とK-5の会合部のスケッチと写真及び現状が異なっているように見えるため、スケッチの作成時期やスケッチへの投影の方法が分かるように示すこと。	スケッチの作成時期や作成方法について、追記する。	2022年2月
	ボーリングコア	121	変質鉱物脈と断層との関係については、薄片観察に加え、露頭やボーリングコアでの目視レベルでも詳細な観察を行い、整理して説明すること。	露頭やボーリングコアについて、再観察、各種分析を実施し、断層周辺に認められる変質鉱物脈や変質の状況について、整理する。	2022年2月 (詳細は次頁)
	ボーリングコア	122	ボーリングコアで柱状図に記載していない軟質部や条線が認められる箇所について、連続する断層かどうか確認すること。 ・H-6.5' 孔の深度61.5m ・G'-1.5-30孔の深度36.6m ・H-6.5' 孔の深度76.7m	軟質部や条線が認められる箇所について、ボーリングコアの再観察、BHTVの解析を実施し、周辺への連続性について検討する。	2022年2月
	薄片観察(鉱物脈法)	123	最新面と鉱物脈との切り合い関係が不明確な薄片については、改めて追加観察を行うこと。 ・S-1(H-6.7孔)の面2 ・S-4(E-8.50'''孔)の面2 ・S-5(R-8.1-1-3孔)の面1 ・S-7(H-5.7'孔)の面2 ・K-3(M-2.2孔)の面1	最新面と鉱物脈との切り合い関係が明確でない薄片について、必要に応じて新たな薄片を用いて再観察等を実施し、最新面と鉱物脈との切り合い関係についての説明を追記する。	2022年2月 (詳細はP.11, 12)
	薄片観察(鉱物脈法)	124	敷地内断層との比較に用いている福浦断層の薄片観察結果については、含まれる変質鉱物の種類の分析結果も含めて、より詳細に説明すること。また、断層中に認められる積層構造について、薄片観察に加え、露頭での観察結果についても詳細に記載すること。	福浦断層で認められる変質鉱物の分析、薄片観察を実施し、敷地内断層との違いについて追記する。また、大坪川ダム右岸トレンチ等の露頭で認められる積層構造についても、観察結果を追記する。	2022年2月
敷地周辺の地質・地質構造	福浦断層	28	福浦断層の基礎的なデータとして、福浦断層周辺の地形・地質の状況、大坪川ダム右岸トレンチやボーリングコア等において確認された、断層上下盤に分布する地質や変質状況の違いについて、整理すること。	福浦断層上下盤に分布する地質や変質状況を整理し、岩相の分布図を示す。	2022年4月
	福浦断層	29	大坪川ダム右岸トレンチにおいて、断層活動による変形がどこまで及んでいるかについて検討すること。また、上載地層の観察や破砕物の性状から考えられる活動履歴の状況について整理し、より詳細な説明を行うこと。	大坪川ダム右岸トレンチの露頭について、再度観察、各種分析を行い、観察・分析結果を追記する。また、赤色土壌の上位の赤褐色土壌に変形が及んでいる可能性についても検討する。	2022年4月
	福浦断層	30	福浦断層北部のルートマップAで確認された断層aの性状や運動センス等のデータを追加で取得し、福浦断層と比較した検討結果も示すこと。	ルートマップAの断層aについて、研磨片、薄片観察等により性状や運動センスに関するデータを取得し、福浦断層との比較を行う。	2022年4月
	福浦断層	31	福浦断層の北端と評価されているルートマップD,Eにおいて、断層がないことの説明性を高めるために、追加で地質データを取得し、断層想定位置を横断して地層境界が連続すること等、露頭観察結果を補強するような地質状況の検討結果を示すこと。	ルートマップD, Eの露頭について、再度観察を行い、層理や地質層序に関する記載を充実する。さらに、露頭に認められる白色脈について、各種分析を実施し、データを取得する。	2022年4月

2. 現地調査でのコメント及び回答方針 –コメントNo.121回答方針–



- 変質している区間(弱い変質)
 - 変質している区間(中程度の変質)
- S-1写真(L-12.2孔)

破碎部中に脈状に変質鉱物が分布



拡大写真(L-12.2孔 41.8~42.0m)

L-12.2 (2の2)		G L = 30.32m		L = 70.0m							
標尺 (m)	標高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)	R Q D (%)	岩 級 区 分	記 事
						20	40				
40			△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐			58	100	Bb	41.31~41.96 見掛けの傾斜角60~65°の厚さ27cmの破碎部。厚さ27cmの固結した破碎部及び厚さ0.1~0.2cmの黄褐色の粘土状破碎部からなる。(S-1断層)
	-10.94	41.90	▽▽▽	褐			35	85			
			◇◇◇	オリブ褐			40	97			
			△△△	黒褐			50	100			
			▽▽▽	オリブ黒				100	100	Cb	46.80~48.86 周囲に比べ軟質。
			◇◇◇	オリブ褐			100	100			
	-18.43	49.50	△△△	暗赤褐に濃い赤褐			30	88			
50			▽▽▽	暗赤褐			75	100			

・破碎部中に変質鉱物脈が分布する状況や断層周辺の変質の状況についての記事を追記する。

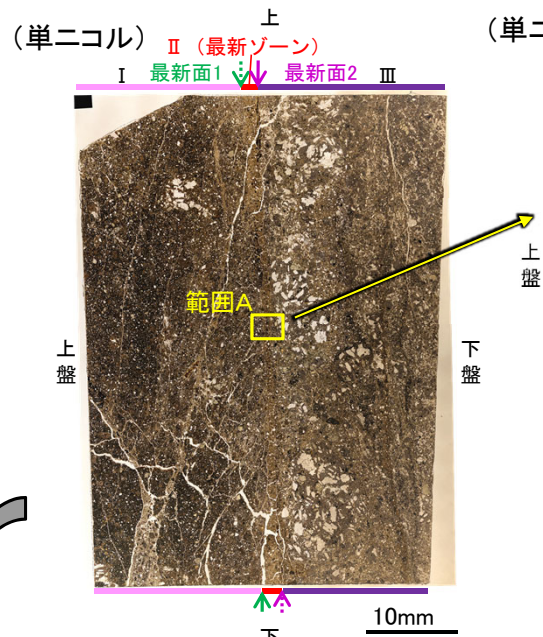
柱状図 L-12.2孔(追記前)

・上図に示すようなボーリングコアや露頭について、再観察、各種分析を実施し、破碎部中に変質鉱物脈が分布する状況や断層周辺の変質の状況について整理する。

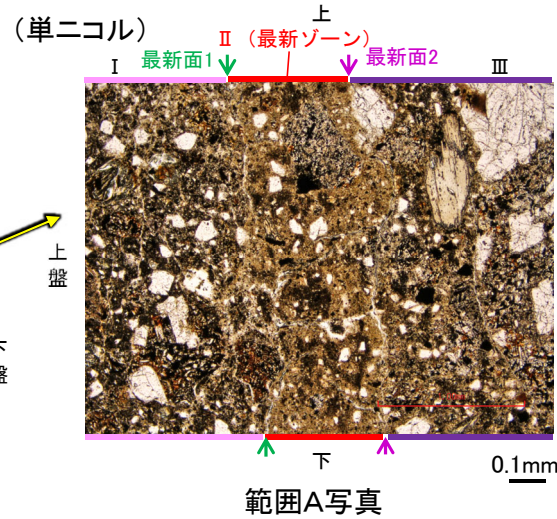
2. 現地調査でのコメント及び回答方針 –コメントNo.123回答方針(S-1, S-4, S-5, S-7)–

【回答方針】最新面と鉱物脈との切り合い関係が不明確な箇所については、奥に削り込んだ位置で作成した別の薄片等の観察を実施し、最新面と鉱物脈との切り合い関係が明確な箇所を示す。

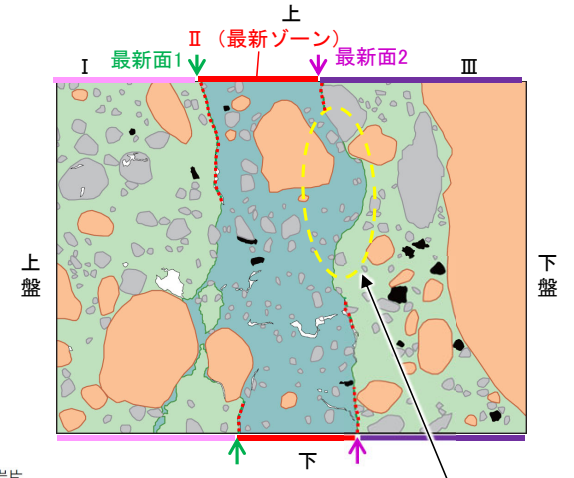
第935回審査会合
説明資料
(S-4)



薄片①写真(E-8.50”_131R)



範囲A写真



凡例

- 主要な岩片
- 斜長石などの鉱物片
- 不透明鉱物
- 空隙部
- 変質部(I/S混合層)
- 主要な岩片等を除く基質部
- ⋯ 最新面1, 2

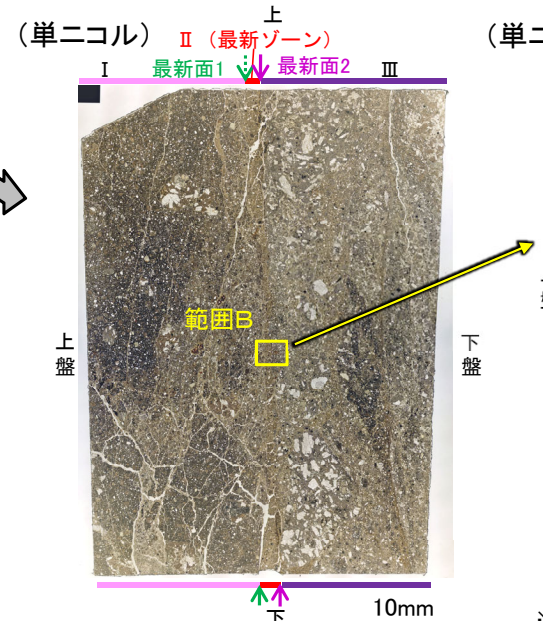
最新面2と鉱物脈との
切り合い関係が不明確。

スケッチ

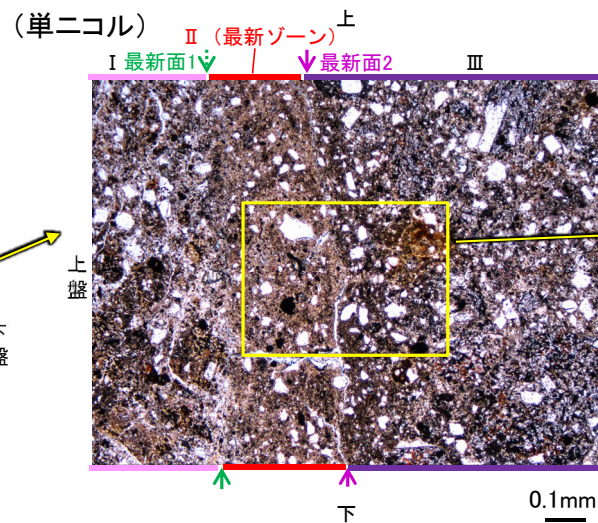
←… : 延長位置

奥に削り込んだ位置
で作成した別の薄片
等で観察を実施。

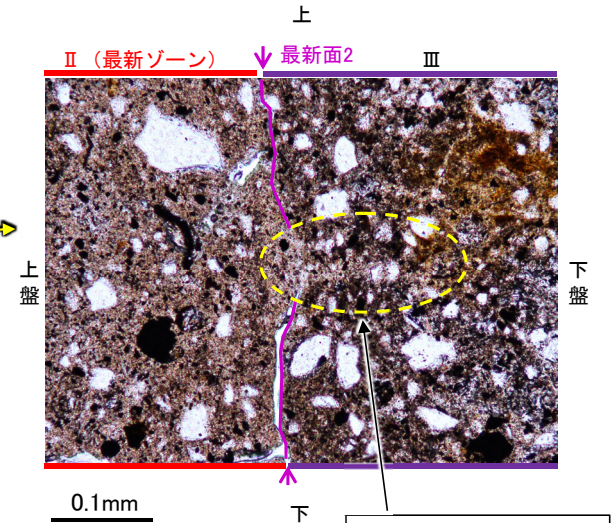
現地調査以降の
観察結果



薄片②*写真(E-8.50”_131R)



範囲B写真



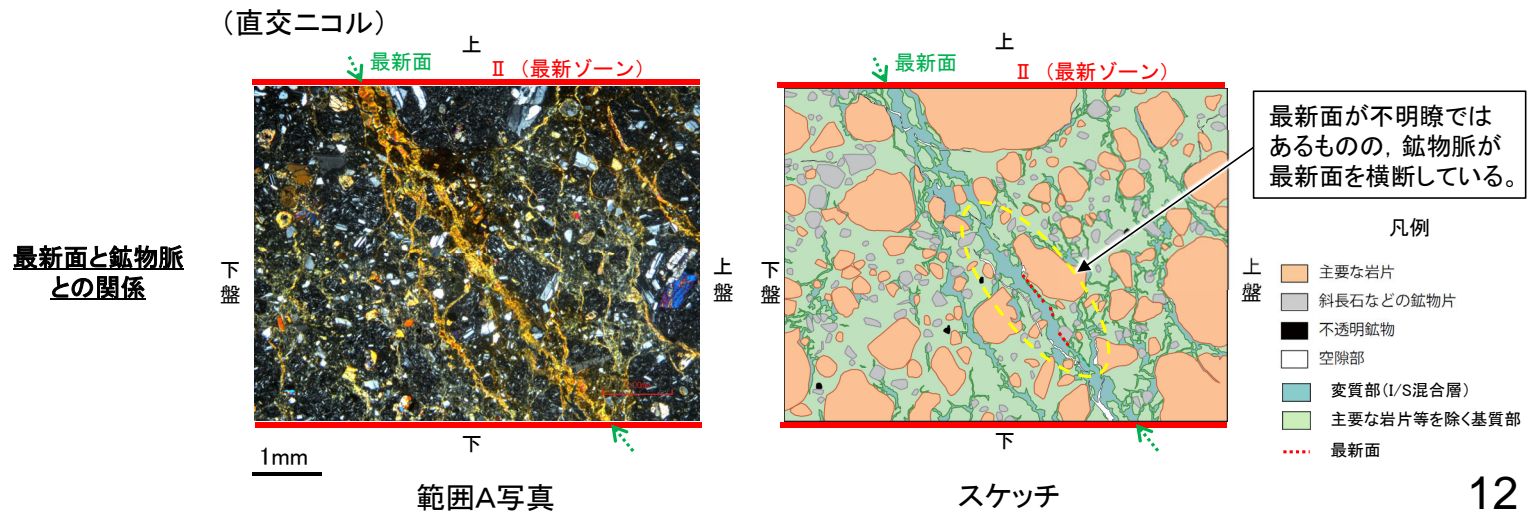
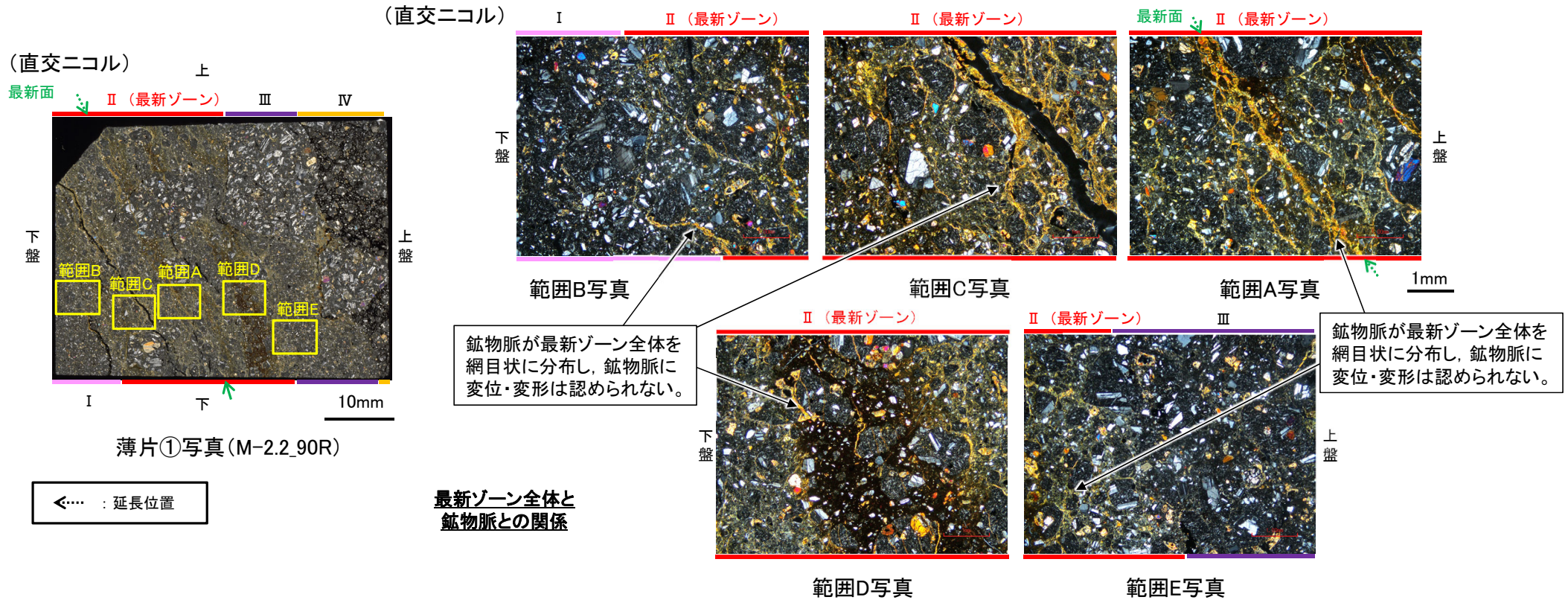
最新面2と鉱物脈との
切り合い関係が明確。

※観察用薄片(上図)を作成した箇所から
1mm程度削り込んだ位置で作成した。

詳細観察写真

2. 現地調査でのコメント及び回答方針 –コメントNo.123回答方針(K-3)–

【回答方針】K-3は固結した破碎部からなり最新面が不明瞭であることから、最新面と鉱物脈との切り合い関係に加え、最新ゾーン全体を網目状に分布する鉱物脈の形状についても詳細に観察した上で記載の充実を図る。



3. 今後のスケジュール

○今後、敷地、敷地周辺(近傍)について調査・検討の結果をとりまとめ、2月以降順次説明を予定している。今後のスケジュールを以下に示す。
 ○なお、敷地周辺の地質・地質構造のうち、敷地を中心とした半径5km以遠の断層の評価については、1月以降の説明を予定している。

今後のスケジュール(予定)

	2021年		2022年								備 考	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
敷地												
	鉦物脈法の補強データの取得											
	上載地層法の補強データの取得											
		敷地の資料(コメント回答)とりまとめ		ヒアリング								
敷地周辺 (近傍)												
	ボーリング調査、露頭観察、各種分析											
	反射法地震探査・解析											
				敷地周辺(近傍)の資料(コメント回答)とりまとめ		ヒアリング						
敷地周辺 (5km以遠)												
	敷地周辺(5km以遠)の資料とりまとめ		ヒアリング									

(参考)未回答コメント一覧 ー敷地の地質・地質構造ー

区分	No.	コメント			備考
		開催回	日付	内容	
活動性評価(鉱物脈法)	110	第935回	2021.1.15	敷地の変質鉱物と第四系との関係について、安山岩中の割れ目に認められる白色脈とその直上の堆積物の関係をより詳細に説明すること。	No.116と合わせて回答
活動性評価(鉱物脈法)	111	第935回	2021.1.15	敷地の変質鉱物が地下深部で生成後に隆起したとする評価に関して、能登半島周辺の地質構造に関する既往知見との関係を整理すること。	
活動性評価(鉱物脈法)	112	第935回	2021.1.15	敷地の安山岩の変質時期の説明において、生成環境の検討を行っているが、敷地周辺に分布するほぼ同時期(新第三紀)の堆積岩の変質状況についても確認すること。	
活動性評価(鉱物脈法)	113	第935回	2021.1.15	薄片観察における最新面の認定及び碎屑岩脈の分布形状の評価について、観察範囲の拡大等により、観察結果をより詳細に記載し、説明性を高めること。	No.123と合わせて回答
活動性評価(鉱物脈法)	114	第935回	2021.1.15	敷地内断層と周辺の活断層である福浦断層の破砕部の性状の比較について、福浦断層の露頭観察結果、薄片のサンプリング位置等を示したうえで、福浦断層との違いについてより詳細な説明を加えること。	No.124と合わせて回答
活動性評価(K-3)	115	第935回	2021.1.15	K-3のM-2.2孔の薄片観察結果について、最新面の認定に関するデータの拡充を行い、根拠の充実を図ること。	
変質鉱物の年代評価	116	現地調査	2021.11.18, 19	穴水累層中に認められる白色脈と第四系の関係について、露頭での再観察等、より詳細なデータを示すこと。	No.110と合わせて回答
S-2・S-6 (上載地層法)	117	現地調査	2021.11.18, 19	No.2トレンチでは、断層活動の影響により地層が山側に傾斜している可能性も考えられるため、上載地層の傾斜方向や礫の長軸の傾斜方向の説明にあたっては、S-2・S-6との位置関係も考慮した分析を行うこと。	
S-4 (上載地層法)	118	現地調査	2021.11.18, 19	35m盤トレンチについて、当該地点で上載地層を用いた手法により活動性を評価するのであれば、断層位置が判別できる露頭を改めて示した上で、説明すること。また、岩盤と上載地層との境界部についても、認定根拠を具体的に示すこと。	
S-4 (上載地層法)	119	現地調査	2021.11.18, 19	35m盤法面の施工時の記録等があれば提示すること。	
海岸部	120	現地調査	2021.11.18, 19	K-2とK-5の会合部のスケッチと写真及び現状が異なっているように見えるため、スケッチの作成時期やスケッチへの投影の方法が分かるように示すこと。	
ボーリングコア	121	現地調査	2021.11.18, 19	変質鉱物脈と断層との関係については、薄片観察に加え、露頭やボーリングコアでの目視レベルでも詳細な観察を行い、整理して説明すること。	
ボーリングコア	122	現地調査	2021.11.18, 19	ボーリングコアで柱状図に記載していない軟質部や条線が認められる箇所について、連続する断層かどうか確認すること。 ・H-6.5' 孔の深度61.5m ・G'-1.5-30孔の深度36.6m ・H-6.5' 孔の深度76.7m	
薄片観察 (鉱物脈法)	123	現地調査	2021.11.18, 19	最新面と鉱物脈との切り合い関係が不明確な薄片については、改めて追加観察を行うこと。 ・S-1(H-6.7'孔)の面2 ・S-4(E-8.50''孔)の面2 ・S-5(R-8.1-1-3孔)の面1 ・S-7(H-5.7'孔)の面2 ・K-3(M-2.2孔)の面1	No.113と合わせて回答
薄片観察 (鉱物脈法)	124	現地調査	2021.11.18, 19	敷地内断層との比較に用いている福浦断層の薄片観察結果については、含まれる変質鉱物の種類の分析結果も含めて、より詳細に説明すること。また、断層中に認められる積層構造について、薄片観察に加え、露頭での観察結果についても詳細に記載すること。	No.114と合わせて回答

(参考)未回答コメント一覧 ー敷地周辺の地質・地質構造ー

区分	No.	コメント			備考
		開催回	日付	内容	
福浦断層	21	第1009回	2021.10.14	福浦断層南部の改変前の地形データを示すこと。	
福浦断層	22	第1009回	2021.10.14	福浦断層南部の断層トレースや南端の評価について、大坪川ダム左岸のF-1'孔で確認された破碎部の追加分析等も含めて、地質データの拡充等を行うことにより、根拠を充実させること。	
福浦断層	23	第1009回	2021.10.14	福浦断層南部において、反射法地震探査の実施を検討すること。	
長田付近の断層	24	第1009回	2021.10.14	長田付近の表土はぎ調査①で確認された不整合境界に関する詳細なデータを示すこと。	
富来川南岸断層	25	第1009回	2021.10.14	富来川南岸断層の北東端(Loc.A)の評価にあたり、今田付近の地質データを用いて評価することの妥当性を説明すること。また、地表踏査で得られた露頭データが北東端(Loc.A)の評価に十分であることの説明性を向上させること。	
富来川断層	26	第1009回	2021.10.14	富来川南岸断層の北東方に位置する富来川断層の評価について、文献との対応や富来川南岸断層との関係も含めて説明すること。	
段丘面	27	第1009回	2021.10.14	能登半島西岸の段丘面高度分布における傾動の有無については、標高のばらつきがあることを踏まえ、評価を行うこと。	
福浦断層	28	現地調査	2021.11.18, 19	福浦断層の基礎的なデータとして、福浦断層周辺の地形・地質の状況、大坪川ダム右岸トレンチやボーリングコア等において確認された、断層上下盤に分布する地質や変質状況の違いについて、整理すること。	
福浦断層	29	現地調査	2021.11.18, 19	大坪川ダム右岸トレンチにおいて、断層活動による変形がどこまで及んでいるかについて検討すること。また、上載地層の観察や破碎物の性状から考えられる活動履歴の状況について整理し、より詳細な説明を行うこと。	
福浦断層	30	現地調査	2021.11.18, 19	福浦断層北部のルートマップAで確認された断層aの性状や運動センス等のデータを追加で取得し、福浦断層と比較した検討結果も示すこと。	
福浦断層	31	現地調査	2021.11.18, 19	福浦断層の北端と評価されているルートマップD,Eにおいて、断層がないことの説明性を高めるために、追加で地質データを取得し、断層想定位置を横断して地層境界が連続すること等、露頭観察結果を補強するような地質状況の検討結果を示すこと。	